

リチウムイオン電池の出火危険

袋井工場 山田

近年各地でリチウムイオン電池による火災が頻発しています。

弊社袋井工場においても 2019 年の 1 月火災が発生しました。出火元を調査すると多数の電池が混入していたためそれが原因と考えられます。

リチウムイオン電池の発火は多くの場合「熱暴走」と呼ばれる現象によって引き起こされます。

不適切な廃棄によって収集された電池が処理施設の破砕機や圧縮機で破壊されると内部短絡（ショート）起こり電池内部の正極と負極が直接接触し激しく発熱します。

環境省などの調査では、自治体のゴミ処理過程での火災件数が、2022 年度の 4260 件から 2023 年度には 8543 件へと 1 年で倍増しています。東京消防庁管内においては 2025 年 9 月末時点での火災件数は 228 件に達しており、過去最多だった前年を上回るペースで推移しています。令和 6 年通期では前年比 4 割増しとなっています。

安全に使用、廃棄するために JIS マークや PSE マークがついた、信頼できるメーカーの製品を選ぶ。膨らんだ電池や異常に暑くなる製品の使用を中止する。廃棄の際は自治体ルールに従い JBRC 協力店などの回収ボックスを利用して、一般ごみに混ぜないように徹底してください。

お客様におきましては廃棄物排出の際、弊社との委託契約時に取り交わしている覚書「産業廃棄物排出についてのお願い※同封のマニュアル参照」の 1、処理可能品・不可品一覧②処理不可品（当社中間処理品目でない廃棄物）◎蛍光灯、水銀灯◎乾電池（アルカリ・マンガン）紙筒の電池、ニカド電池、ニッケル電池、リチウムイオン電池◎各種バッテリー、無停電装置、誘導灯等◎引火性・発火性廃棄物（発煙筒、花火、ライター、マッチ）をご参照いただけますようお願いいたします。

搬入時の受入検査で乾電池がついたままの廃棄物が発見された場合は、返品または別途料金で処分となります、ただし、混入が多発する場合はお取引を停止させていただく場合もございますので、宜しくようお願いいたします。尚、返品に係る作業については、代金を請求させていただくことになる場合がありますので、悪しからず、ご了承ください。